

<p><研究課題名></p>	<p>D-0801 (F-081)</p>	<p>非意図的な随伴侵入生物の生態リスク評価と対策に関する研究</p>
----------------------	---------------------------	-------------------------------------

<p><研究概要></p> <p>本研究課題では、これまで政策的、社会的にも関心を集めることが少なかった潜在的な随伴侵入生物の侵入実態および生態学的特性を明らかにするとともに、在来生物・生態系および人間生活に対する影響評価を行う。さらに侵入ルートおよび分布拡大プロセスについて生物学的側面および社会経済学的側面からの解明および予測を図り、検疫・防除手法の具体的検討を行うことを目的とする。最終的には、環境省・外来生物法における「非意図的な随伴侵入生物」の管理方針の必要性を示し、科学的提言を行う。</p> <p>(1) 非意図的な随伴侵入生物の侵入ルートの解明および防除対策 「見えない随伴侵入生物」の実態を広く一般へ紹介するためのデータベース構築を行う。随伴侵入生物の侵入ルートをDNA分析により明らかにして、国内外における分布拡大プロセスを解析する。特に国内外におけるカエルツボカビ菌の分布拡大状況を把握するとともに、本菌による生態影響実態を調査する。さらにサブテーマ(2)(3)(4)(5)と連携して随伴侵入生物を防除する上での輸入資材の検疫手法を開発してマニュアル化する。</p> <p>(2) 輸入資材における随伴侵入生物の生態リスク評価 輸入木材、木工資材、植物資材などに紛れて侵入してくる小型の節足動物やセンチュウ類、菌類の分類を整理してインベントリーを作成する。各侵入生物の生物学的特性に関する情報収集および実験データに基づき生態影響評価を実施する。微小生物に対して可能且つ有効な検疫システムを考案する。</p> <p>(3) 外来の淡水無脊椎動物の生態リスク評価 カワヒバリガイ、タイワンシジミなど淡水性無脊椎動物の国内外における侵入・分布拡大実態を明らかにする。また、それらが持ち込む寄生虫の実態を解明する。カワヒバリガイおよびタイワンシジミの野外における生活史を調べて、分布拡大・定着要因を抽出し、その防除策を立案する。</p> <p>(4) 輸入動物に随伴する病原体の生態リスク評価 カエルツボカビ菌を分離培養する技術を確立して、在来種両生類に対する病原性評価を行う。さらに、消毒法、治療法および予防法を開発して、防除対策を検討する。同時に輸入ペット両生類・爬虫類の感染症持ち込み状況をモニタリングして、新興野生生物感染症の早期発見を図ることを目標とする。</p> <p>(5) 輸入動物に随伴するマダニ類の生態リスク評価 輸入動物随伴性節足動物であるマダニとマダニ媒介性細菌・ウイルスに焦点を当て、これら随伴微生物について国内侵入の実態調査を行う。調査で分離された細菌・ウイルスについては、実験的に生体への感染リスクについて評価を行う。</p>	
---	--

<p><研究代表者></p>	<p>五箇 公一</p>	<p>(独)国立環境研究所環境 リスク研究センター 主席研究員 (45才)</p>
----------------------	--------------	---

No.	サブテーマ名		氏名	所属機関名・部局・役職名
(1)	非意図的な随伴侵入生物の侵入ルートの解明および防除対策	◎	五箇 公一 高村 健二	国立環境研究所 環境リスク研究センター 主席研究員 国立環境研究所生物圏環境研究領域 室長
(2)	輸入資材における随伴侵入生物の生態リスク評価	○	岡部 貴美子 升屋 勇人	独立行政法人森林総合研究所森林昆虫研究領域 独立行政法人森林総合研究所森林微生物研究領域 主任研究員
(3)	外来の淡水無脊椎動物の生態リスク評価	○	木村 妙子	三重大学大学院生物資源学研究科 准教授
(4)	輸入動物に随伴する病原体の生態リスク評価	○	宇根 有美	麻布大学獣医学部病理学研究室 准教授
(5)	輸入動物に随伴するマダニ類の生態リスク評価	○	川端 寛樹	厚生労働省国立感染症研究所 細菌第一部 第4室 室長